市政に関する一般質問
３月会議は20人の議員が質問

北初富駅南側の交差点、国道464号と市道28号線の交差部分について
針貝和幸 議員

問 北初富駅南側の交差点は道幅が狭く危険な状況であるが、歩行者だまりや右折レーンなどの整備予定について伺います。

答 歩行者の安全や円滑な交通を確保するために歩行者だまりや右折レーンは必要であるため、関係機関と協議し、交通量などの必要な調査を踏まえ、交差点の機能確保について検討していきます。

問 交差点に右折レーンを設置する場合の市道３３６１号線跡地の必要性について伺います。

答 市道３３６１号線跡地は民有地のため地権者により土地活用が図られるものと考えますが、交差点の改良や歩行者空間の確保などを検討していく上で、用地のご協力をいただく可能性があることから計画を検討していく中で見極めたいと考えています。

東道野辺三丁目地区における地域排水整備について
勝又勝 議員

問 当該地区の冠水被害について市の認識を伺います。

答 宅地化が進み、雨水浸透力の低下などにより市道３８２６号線のくぼ地部分などで雨水が集中し、浸水被害が発生しています。

問 当該地区の適切な雨水排水の対応策を伺います。

答 市道３８２６号線の排水管の容量を増やすことやこの排水管に地盤高の低い道路の排水施設を接続できるようにすることで、雨水排水を適切に処理できるものと考えています。

問 この地区における今後の排水整備について伺います。

答 令和６年度に実施する予備設計等の結果を見極めた中で、浸水被害の解決に向けた整備計画を策定し、詳細設計や地域排水整備工事を実施していきます。

本市における防災・減災対策について
矢崎悟 議員

問 避難所となる体育館の空調設備は、被災者の命を守る上で重要だと、議会でこれまで取り上げてきましたが、市の整備計画を伺います。

答 小中学校体育館は、令和10年度までの予定で毎年度３校程度の実施設計と次年度以降の設置工事を行います。令和６年度は、鎌ケ谷、南部、道野辺の３小学校と市民体育館を工事しますが、市民体育館は７年度の完了予定です。

問 東日本大震災や熊本地震の災害関連死の死者数は、地震で命を落とした人の４倍との報道があります。市の今後の対策を伺います。

答 災害関連死は高齢者のリスクが高いため、その防止対策は重要であり、避難所環境の改善や運営面での対策について、他市の先進事例を参考に検討していきます。

北初富駅周辺の整備に伴う歩道等の通行困難な現状と今後の対策を問う
津久井清氏 議員

問 北初富駅周辺の歩道等の現状に対する市民からの苦情や要望について、市の認識を伺います。

答 主に「歩道が狭く危ない」「渋滞がひどい」等18件の要望が寄せられており、市では駅周辺における安全で歩きやすい歩道整備を目指していきます。

問 歩道の拡幅には、駅前交差点の建物の土地の取得が必要と考えますが、市の具体的な取組について伺います。

答 今後、隣接する建物への対応も含めて、交差点改良や歩道拡幅などを検討していく中で見極めていきます。

問 駅前交差点の復旧後、自動車の渋滞が特にひどいため右折レーンの新設についての市の認識を伺います。

答 右折レーンの必要性を認識しており、今後、関係機関とも協議しながら交差点改良に向けて取り組みます。

こどもの「居場所」づくりについて
佐藤剛 議員

問 放課後児童クラブと放課後子ども教室の違いを伺います。

答 本市の放課後児童クラブは、共働き家庭の小学生を対象とし、月額利用料及びおやつ代が必要となり、開設は19時までですが、近隣市の放課後子ども教室は、無料又は低額でどなたでも利用でき、開設は17時までとなります。

問 放課後子ども教室の整備に関する見解を伺います。

答 空き教室の不足や児童センターの充実により、放課後子ども教室の実施には至っていませんが、今後、こどもの居場所づくりに関する国の指針、児童の活動状況や保護者の意見等を踏まえ、第３期子ども・子育て支援事業計画策定の中で、本市の特性を生かした放課後の居場所づくりについて、具体的に検討していきます。

大規模災害時の対応について
泉川洋二 議員

問 国のガイドラインでは、福祉避難所を指定福祉避難所に指定し、対象者の直接避難の促進が示されていますが、市の取組状況を伺います。

答 指定避難所への避難後に避難者の状態や避難生活の状況を判断し、受入可能人数などを調整の上、福祉避難所を開設することから、現在のところ指定福祉避難所に指定した施設はありませんが、今後、指定に当たり、諸条件を整理しながら検討します。

問 福祉避難室の設置について、市の見解を伺います。

答 福祉避難室は、指定避難所での避難生活に困難が生じる高齢者、障がい者などに対する特別の配慮のため、指定避難所内に必要に応じて開設するもので、災害時における要配慮者の不安を取り除くための具体的な取組であることから、今後、他市の事例を参考に検討していきます。

市議会キッズページ

子どもたちに市議会を身近に感じてもらうため「実際にあった市議会ストーリー」や「市議会での話し合い」「市議会Q&A」などに項目を分けて、わかりやすく紹介しています。

市議会ホームページでご案内していますので、ご覧ください。

今後の行政改革のために現在の鎌ケ谷市議会における議員定数について
水町元大 議員

問 市議会議員の定数の変遷について伺います。

答 市制施行の昭和46年は、法定議員定数30人に対し、議員数は26人、昭和50年には、都市化の進展に伴う人口増加を踏まえ30人、平成７年に、行財政改革の推進及び財政状況を踏まえ議員発議により３人削減して27人、平成23年にはさらに３人削減して24人となり、現在に至ります。

問 近隣市の議員定数を伺います。

答 令和４年12月末現在の全国市議会議長会の調査結果では、松戸市44人、柏市36人、流山市28人、野田市28人、我孫子市24人となります。

問 今後の市議会の在り方や展望について伺います。

答 議員定数のあり方などは人口減少や少子高齢化などの様々な課題を見据え、議会が主体となり議論するものになろうかと考えています。

いじめ・ネットトラブル防止の取組について
鈴木哲也 議員

問 文部科学省の「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」では、１人１台端末を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、メンタルの悪化や児童生徒が発するＳＯＳの早期発見につなげる心の健康観察や、子供のＳＯＳ相談の窓口となるアプリを学習用端末に集約し、導入を促進する動きがありますが、このような国の動向に対し、市の導入に関する見解を伺います。

答 現在は、端末を活用し、児童生徒の様子を確認している学校や端末を使わず連絡帳等により確認している学校もあることから、児童生徒の心や体調の変化をより早く発見し、効果的な手立てを取ることができるようアプリも含め導入している他の自治体の状況などについて、今後、調査研究していきます。

「生涯現役社会」に向けたシニア向け施策について
山中優宏 議員

問 アンケート調査から、シニア向けの就労支援が生きがい創出の上で重要だと考えますが、市の見解を伺います。

答 高齢者の豊富な知識や経験を生かせるよう、無料職業紹介所わーくプラザ鎌ケ谷の利用促進やシルバー人材センターとの連携強化を図っています。また、ボランティア活動や生涯学習、スポーツ活動の推進など、社会参画を支援します。

問 福祉関係予算が財政を圧迫する中、健康寿命の延伸が将来の市の予算に与える影響について伺います。

答 内閣府によると健康寿命が１年長い都道府県では、１人当たり医療費が約３万１千円低いとの見解が示されています。仮に、本市の人口を11万人として健康寿命が１年長くなれば、単純計算で年間30億円以上の医療費の抑制に寄与することとなります。

人権への取組について
河内一朗 議員

問 市職員への人権の啓発はどのように行っていますか。

答 人権サミットや人権ユニバーサル事業などに参加しています。今後は、パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度の策定作業の一環として、庁内検討会議の開催や関係各課を対象とする職員説明会などを予定しています。

問 子どもたちが自分たちの人権について学び、実践する環境整備が大切ですが、人権教育の方向性を伺います。

答 小中学校には、子どもの権利ノートの周知や活用について通知し、理解の促進を進めていますが、今後もさらに活用の強化及び研修に努めていきたいと考えています。また、児童会や生徒会の活動などでは、主体的に活動する場や意見を表明する場を確保するよう継続して指導していきます。